

東京日々新聞

千三十六号



信州飯田松尾町は、最も長て七十の上と九の腰を二重に成す
 ちりもこの輪懸職の甚助が近所に住めるか大とそ六松七の老婦と
 私通ありと甚助の女房へ六
 一五女あり。良人の名は似
 嫉妬あり

△土地の名
 所の焼捨山と思ひ
 桐原おき去ま幾らの山の
 茨千やら有明山の鏡や
 集名走て耻と更科や田毎の
 月の影暗くあ戸

隠山ちさうら、松の
 木蔭は休息て
 「コト大ニまじり
 て善光寺もよ近
 付と嶮岨のを無草野やあつらん
 大い苦勞とせやと。云よお大い
 上り「柳や飛様と逢るる川の
 手鼻くわさ、恥じさ些とんを
 筑戸川と膝で脊中をつくま川。

戯記
 持病の癩は非むて突の俄に
 轉倒と卒中風あて臥腦む
 老氣の至りの道行い、河原奇座の
 淨瑠璃はのささり似く非る珍説あり

轉々堂主人

一葉齋
 廿七歳

甲形具足屋

ホクノ